

日本現代 工芸美術展

2019年
第58回

The 58th Japan Contemporary Arts and Crafts Exhibition

シンポジウム

「工芸の多様性と独自性」 —工芸とは何か、襖絵は絵画か工芸か—

本来、日本においては工芸とアート（美術）の境界は明確ではなく、お互いの要素を共有しそれぞれに発展してきました。今、工芸から美術に近づくのではなく素材を通して工芸の方からアートを引き寄せる時が来たように感じます。

今回のシンポジウムでは分野の異なる次世代を担う20代、30代の若い作家6人をパネラーに迎えて、一部ではそれぞれの制作と工芸観を述べてもらい、二部では一部の内容をもとにテーマについて日本現代工芸美術展の位置付け方向性を含めて討論してもらいます。

平成31年4月18日 | 木 |
13:00~15:00
東京都美術館講堂

■パネラー

吾子 可苗	(漆)	大村 優里	(染)
佐藤 将輝	(織)	本郷 真也	(金属)
宮長 由紀	(人形)	山岸 青矢	(陶磁)

■コーディネーター

上原 利丸 (染)

一般社団法人 現代工芸美術家協会
<http://www.gendaikougei.or.jp>

吾子 可苗



「libido」

大村 優里



「御手洗の夜」

佐藤 将輝



「煌燈」

本郷 真也



「鬼乃眸」

宮長 由紀



「六月の雨音、葉を伝う」

山岸 青矢



「assembly」